令和4年度　講座実施報告書

講座の名称	DV 防止セミナー～子ども虐待と DV への統合した視点で考える～				
講座の目的	子ども虐待死のケースでは、その背景の一つに DV があります。児童虐待と DV はそれぞれの視点から支援することが多いですが、それを「家庭内暴力」として統合して支援するにはどうすればよいのか、これからの支援のあり方について学びます。				
募集対象	市内在住・在勤・在学の方				
定員	50 名	申込人数	49 名	当日参加人数	55 名
開催場所	上尾市文化センター　小ホール				
日時	11 月 22 日(火)10:00～12:00				
講師	奥山　眞紀子(社会福祉法人　子どもの虐待防止センター理事・小児科専門医)				
開催内容	「DV と子ども虐待」 目黒区と野田市で起きた虐待死事件を比較し、DV と子ども虐待を統合して支援するための現状とこれからの方向性を講義していただきました。				
参加者の声	・内容がくわしく、よく理解できた。現場での対応方法を学ぶ講座も企画してほしい。(50代・女性) ・子ども虐待、被害者 DV の背景など事例をもとにお話しくださりわかりやすかったです。DV に気付き、子どもを守ること、その後の支援など大切であることを改めて理解できました。まだまだ支援のシステムを整えていく必要があると感じました。(40代・女性) ・制度としてどこに穴があるのかが把握できました。今後に役立てたいです。(～30代・男性) ・DV の危険因子や事件の共通点を知ることができて良かった。関わっているケースでも DV で転入してきた方がいるので、業務に役立つ知識を学べてとても勉強になりました。ありがとうございました。(～30代・女性) ・子どもを守ること、身体・精神いじめ etc.を守るだけでなく「加害に回ること」から守るということが大切だと思いました。教えていただいてよかったです。ありがとうございました。(50代・女性) ・DV について身近になかったためイメージがあいまいだったが今日参加して根深い背景があることを知れた。このような知識を多くの人が持つことで悲しい事件が減るきっかけになったらいいと思います。(～30代・女性) ・改めて DV への周りの介入の難しさを感じた。家庭内は特に見えづらく、また被害者の意思が尊重される為(コントロールされていても)「DV はない」と言われればそれまでになってしまう。DV への制度、体制、他期間との連携等、課題も感じた。(40代・男性)				

【チラシ】

【会場の様子】